

平成 2 年度 数学解析 II 試験問題

(担当: 野村隆昭)

1991 年 1 月 24 日実施

時間 10:00~13:00

* [1] ~ [4] のすべてに解答せよ.

* 1 枚の解答用紙で 2 問にわたらぬこと.

[1] Hilbert 空間 H の n 個の元 x_1, \dots, x_n に対して, 次式を示せ:

$$\sum_{(\theta_1, \dots, \theta_n) \in \{-1, 1\}^n} \|\theta_1 x_1 + \dots + \theta_n x_n\|^2 = 2^n (\|x_1\|^2 + \dots + \|x_n\|^2).$$

[2] $x = (x_1, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^n$ に対して, $\|x\| = \sqrt{x_1^2 + \dots + x_n^2}$ とおく.(1) $a > 0$ のとき, $\int_{\mathbb{R}^n} e^{-a\|x\|^2} e^{-i\xi \cdot x} dx = \left(\frac{\pi}{a}\right)^{n/2} e^{-\|\xi\|^2/4a}$ ($\xi \in \mathbb{R}^n$) を示せ.(2) $t \geq 0$ のとき, $e^{-t} = \frac{1}{\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \frac{e^{ity}}{1+y^2} dy$ を示せ.(3) $\frac{1}{1+y^2} = \int_0^{\infty} e^{-(1+y^2)u} du$ を (2) に代入して, $t \geq 0$ のとき, 次式を示せ:

$$e^{-t} = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{\infty} \frac{e^{-u}}{\sqrt{u}} e^{-t^2/4u} du.$$

(4) 以上より, $\int_{\mathbb{R}^n} e^{-\|x\|^2} e^{-i\xi \cdot x} dx = 2^n \pi^{(n-1)/2} \frac{\Gamma\left(\frac{n+1}{2}\right)}{(\|\xi\|^2 + 1)^{(n+1)/2}}$ ($\xi \in \mathbb{R}^n$) を示せ. ただし, Γ は gamma 関数 $\Gamma(t) := \int_0^{\infty} e^{-u} u^{t-1} du$ ($t > 0$) である.[3] f は \mathbb{R}^n 上の Lebesgue 可測函数で, $f \in L^1$ とする. また, \hat{f} は f の Fourier 変換 $\hat{f}(\xi) := \int f(x) e^{-i\xi \cdot x} dx$ ($\xi \in \mathbb{R}^n$) を表すものとする.(1) $f_1 := f$, $f_k(x) := \int f(x-y) f_{k-1}(y) dy$ ($k = 2, 3, \dots$) とするとき, 各 k について, $f_k(x)$ は a.e. $x \in \mathbb{R}^n$ で存在して, $f_k \in L^1$ であり, さらに $\|f_k\|_1 \leq \|f\|_1^k$, $\widehat{f_k}(\xi) = \hat{f}(\xi)^k$ ($\forall \xi \in \mathbb{R}^n$) となることを示せ. ただし, $\|\cdot\|_1$ は L^1 -norm である.(2) $\varphi(0) = 0$ である \mathbb{C} 上の整函数 (entire function) φ に対して, $\varphi \circ \hat{f} = \hat{g}$ となる $g \in L^1$ が存在することを示せ.[4] $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ は Lebesgue 可測函数とする. $\forall x \in \mathbb{R}$ に対して, 零集合 N_x が存在して, $\forall y \notin N_x$ について, $f(y+x) = f(y)$ が成り立つと仮定する. このとき, 定数 c が存在して, $f(x) = c$ (a.e. x) となることを示せ (f が局所可積分なら...).

以上